

○ 株式会社若葉は、アークグループや地元畜産農家から発生する豚ふんを始めとした家畜ふんや食品製造業者の食品残渣などを活用し、有機肥料を製造。

■国内資源の種類

■肥料の種類・肥料名称

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

・牛ふん
・豚ふん
・鶏ふん
・食品残渣
・豚し尿汚泥

・種類：特殊肥料（堆肥）
・肥料名：
館ヶ森 土のめぐみ(有機JAS適合資材)
※豚し尿汚泥を含まない。
若葉のめぐみ
※豚し尿汚泥を含む。

■作物

■主成分の含有量（％）、特徴等

・野菜
・果樹
・花卉
・水稻(飼料用米含む)

銘柄	N	P	K	C/N比
館ヶ森 土のめぐみ	2.5	4.4	2.1	10
若葉のめぐみ	2.6	5.5	2.5	9

・副資材としてバーク、おがくず、わら等を使用

取組の経緯

・（株）アークは、基幹事業である養豚や農薬不使用野菜などの生産から加工、販売、飲食等幅広く取り組んでおり、2005年にグループ会社として(有)若葉を立ち上げ、翌年藤沢有機肥料センターの業務を市の指定管理者として受託。その運営の下、グループ内及び、地域での循環型農業のシステムを確立。その後、2016年に(有)若葉から(株)若葉へ商号変更。
・（株）若葉はアークグループ内における家畜の排せつ物や食品残渣だけでなく、一関市内の畜産排せつ物及び食品残渣などの自然由来の原料を活用した有機肥料を製造・販売。有機肥料は自社農場や県内外の耕種農家等で活用されている（県内利用は約9割）。

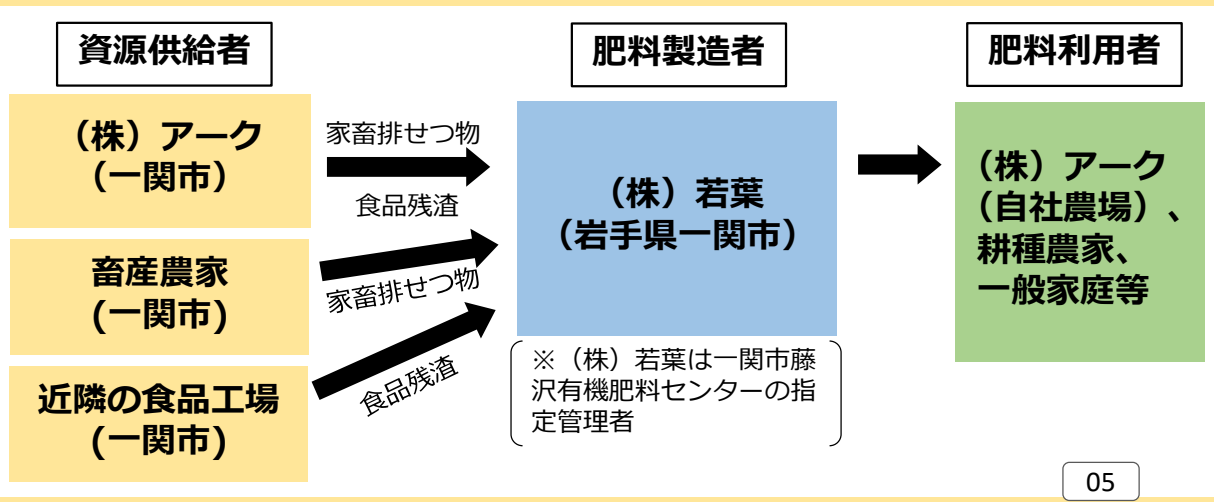
取組の内容

・自然由来の原料をもとに環境に配慮した肥料製造に取り組んでおり、「館ヶ森 土のめぐみ」は有機JAS適合資材の認定を取得。
・地域へ還元するだけでなく、家庭菜園でも活用しやすいよう、「館ヶ森 土のめぐみ」では500g/袋の小容量を用意し、全国ネット販売も実施している。

成果

・2022年以降、化学肥料高騰の影響もあり有機肥料の需要が高まり、県内外での新規取組が増加。 <2022年度販売数量：前期比120%>

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

・畜産業が盛んな地域に立地し、東北有数の製造能力を持つ有機肥料センターとして、今後とも地域における循環型農業の確立に貢献していく。今後国内における有機農業用地拡大を見据え製品の品質を高め、更なる安定供給を目指す。

製品完成状態

若葉のめぐみ

館ヶ森 土のめぐみ